Japan Society of Obstetrics and Gynecology

居ります

症例Ⅲは27才，2回正常分娩，2回人工妊娠中絶の患者で，前回妊娠は最終月経の1カ月前に妊娠第3カ月で人工妊娠中絶を受けて居ります．

以上3例共に病理組織学的検索により狭義の頚管妊娠であることを確かめ得ました．人工妊娠中絶後であり1～6カ月間が短かい点が特異

なお3例共子宮内膜はいずれも脱落膜様変化は示して居りませんでした．

36. 切迫流早産のホルモン療法　特に Dimethisterone の臨床効果について

（大阪回生）　的埜　中，石津重季，上道知三

本症に対するホルモン療法は，従来 Estrogen, Progesterone, Chorionic Gonadotropin, 甲状腺ホルモン，副腎皮質ホルモン等が，或は単独に，或は併用して種々の形で用いられて来た．演者等は，此等の治療成績について，数回に亙り報告して来たが，今回は昭和33年以後の19-Nor. Steroid, 17α-hydroxyprogesterone Cop+Progesterone (Oohormin luteum Dep) Enavit, Map 及び Dimethisterone の使用成績について，その成績の大要を述べる．5例の習慣性流産を含む62例の流早産に19-Nortestosterone (Norluten, Lutenin) を使用し，56例に有効，無効6例で，1日3～10mg，総量15～200mg，Oohorminlteum Depは14例中，有効10例，比較的有効2，無効2，Enavit, Map については，未だ少数例で，現在検討中である．

新黄体ホルモン様物質，62-21 Dimethyl-Ethisterone (Sekrosterone) の臨床効果について

本剤は極めて強力で，BDT，上昇作用は5mg投与で著明でないが，10mg投与で稍々上昇を認め，投与中止後消腿性出血をみる．子宮内膜は，15mg10日間投与により，腺及び間質の増殖，拡大，間腔内に分泌像を認めた．

予め Estradiol 投与すると，著明に現われる．本剤の切迫流産に対する治療として，21例に使用し，一応全例に有効であつたが，後程2例は流産し，他の19例は目下妊娠継続中である．又本剤のAndrogenic Estrogenic 作用及び蛋白同化作用については，今後の検討が必要である．

尚，以上の各物質の副作用であるが，吾々の使用量では1例も認められなかつた．

36. に対する質問　（東　大）官川　統

1）東大に於て現在迄習慣性流早産406例について尿中プレグ 17-KS, Est 及び血清コレステロール値を全経過について調べて居りますが，切迫症状を少し示しても尿中ホルモン排泄は子宮内胎児死亡のみを除いて対照と差異は認められて居りません．

1）貴下のホルモン治療の根拠

2）治療効果の Kontrol 如何

答弁　（大阪回生）石津重季，的埜　中

既に述べた如く流産の原因は多岐多様である．御追加の如く，1）血液型検査は習慣性流早産例の大部分に行つているが何れも Rh 因子には変りなく2例にAB因子に関する抗A免疫抗体中等度に現われた程度で之れが原因と思われぬ（第22回近畿産科婦人科学会総会記事 174頁参照）2）Pregnandiol 測定は施行し得なかつたことは遺憾である．流産の出血は自然に止るか流産に終るかの2つしかない．之を早く止血して妊娠持続するのがわれわれのとるべき最善の処置である．Progesterone の作用は子宮筋の弛緩作用があり又止血作用も考えられている．表に見る如く比較的短期間に良好な成績を得ている．ホルモン投与の治癒機転は機能出血に徴しても定量のみにて決定出来ないことは衆知のことである．

37. 習慣性流早死産症例50例の血液型学的観察

（鳥取大）　田中正久，上野良亮

（鳥取大法医）　岡田　吉郎

2回以上連続して流早死産を反復した症例50例の夫婦につき，詳細な血液型判定，妻血清中の免疫抗体価の測定，殊に Panel of Cells による特殊な抗体検出法を実施し，次の成績を得た．

1）夫婦間ABO式不適合

夫婦間にABO式不適合の存在しなかつた者30例，存在した者19例，不明1例であつた．30例，存在した者19例，不明1例であつた．不適合例の分類は妻O夫A5例，妻O夫B1例，妻O夫AB2例，妻A夫B6例，妻B夫A5例であつた．この中，妻血清中にABO式免疫体を証明した者は9例で，全症例の18%，不適合症例のほゞ半数にあたる．その内訳は，妻O夫A3例，妻O夫AB2例，妻A夫B1例，妻B夫A3例で，抗A抗体が9例中8例で圧倒的に多くみられた．

妻血清中に免疫抗体の認められなかつた3例に於てはその後生児が得られた．次にABO式免疫抗体は認めなかつたが，その他の血液型因子による抗体を証明した者が2例あり，夫々抗E1例，抗 Le^a 1例であつた．又抗A抗体と同時に抗E，抗Cを伴つた各1例宛がみられた．以上の成績からABO因子の中では，A因子が習慣性流

NII-Electronic Library Service